

授業紹介

研究活動の基礎

「研究活動の基礎」は1年次の卒業必修科目です。授業の目的として、一人一人が主体となり研究に取り組むことを通して研究の科学的アプローチを理解したり、研究を進めるために必要な基礎的能力を身につけたりすることなどが挙げられます。授業では論文の調べ方や読み方など、研究の基礎的なところから学ぶことができます。また、教員や先輩方から研究活動について教えていただく機会があるため、自分の研究活動の参考になると思います。

今回は、授業計画 第8回「特別研究発表会に参加する」、第9回「教員に相談してみよう」、第10回「2年生からアドバイスをもらう」をレポートしました!!

授業計画

- STEP 01 オリエンテーション
研究とは何か
- STEP 02 教員の研究などの話を聞く
- STEP 03 必要な情報の探し方
- STEP 04 文献を読む
- STEP 05 研究テーマの決め方
- STEP 06 学術的文章を読む
- STEP 07 研究計画を立てる、発表会を聞くための心構え
- STEP 08 特別研究発表会に参加する
- STEP 09 教員に相談してみよう
- STEP 10 2年生からアドバイスをもらう
- STEP 11 ~ STEP 15 各研究室での研究活動



★学生ルポライター あやな
学生ルポライターを務めさせていただきます。
あやなと申します!授業について分かりやすく
お伝えできていたら嬉しいです。



★学生ルポライター のっつん
学生ルポライターののっつんです!
授業紹介の記事を書かせていただきました。



特別研究発表会では、2年生の研究内容についてスライドを見ながら聞くことができます。この発表会が行われる時期には、1年生も研究計画書を作成します。先輩方の発表内容を聞くことは、自分の研究をどのように進めていくかの指標になり得るため、どんな研究にしようか悩んでいる人も発表内容から研究のきっかけつくることができるかもしれません。

第8回：特別研究発表会に参加する

特別研究は、2年次の卒業必修科目です。自分が興味のある分野を約1年間かけて追究します。研究の目的に合わせて、アンケート調査、レシピ作成、実験、クッキング活動などを行います。この発表会では、1年生、2年生、先生方へ、その成果をスライドにまとめて発表します。私たちはその発表を聴き、気になったところがあれば2年生に直接質問をすることができます。ジャンルは子ども、食品ロス、食品安全、地域活性化、減塩など、様々なテーマがありました。その中でいくつか、どんな発表があったかご紹介します。

子どもの調理体験に最適なレシピ

子どもと調理をするうえでどんなことに注意するべきなのか、どうしたら子どもに楽しんで調理をしてもらえるかという研究でした。食中毒を防ぐために生肉は使用しない、危ないので加熱作業は大人が行う、子どもと会話しながら調理するなどの工夫がありました。

大学生の食生活とストレスの関係

大学生は一人暮らしや生活スタイルの変化から食生活が乱れがちで、食生活はメンタルに直結していること、魚の摂取が多いと不安症状が減少しやすいこと、適度なお菓子は精神衛生に良いことなどを研究から導き出していました。

毎日くだもの200g運動

「毎日くだもの200g運動」という運動を推進して栄養価の高い果物を食べる習慣をつけてもらう研究でした。摂取量は年代ごとに下がること、青森県民は果物の摂取量が低いこと、保護者自身は少なくとも子どもには与えている人が多いなどの結果が出ていました。



第9回：教員に相談してみよう

2年生の発表を聴いたり、文献を読んだりして作った仮の計画書をもって、3人の先生に研究内容を相談しに行きます。それぞれ、話を聞きたい先生や、自分のやりたい分野に近い研究をする先生に話を伺い、自分のテーマについて考えることができます。自分がどんなことを研究したいか、ざっくりでもいいので考えていると相談しやすいです。実験を専門的に行っている方、調理で手助けをしてくださる方、子どもに関わる研究をしている方など、分野の違う先生がたくさんいらっしゃり、親身に話を聞いてくださいます。そのため、何をやってみたいか、どんな問題を解決したいかわかっていると相談が楽しいですよ！

第10回：2年生からアドバイスをもらう

研究室ごとのブースに分かれています、2年生が2～5人ほど待機していました。私たちが何をテーマにどのようなことがしたいのかについて話し、アドバイスをいただきました。自分が取り組んでみたいテーマと研究室で行っていることがマッチしているか、研究室の雰囲気等、様々なことを聞くことができました！



お
ま
け

特別研究発表会を聞いた感想

私が発表を聴いて感じたことは2つあります。1つは動機、目的、計画、行動の一貫性が大事だということです。一貫性がないと、目的・方法から結果・考察までの研究内容がまとまらないと思いました。そうならないために計画を立てるとときは目的に合うような活動を考えなければなりません。もう1つは研究が成功しても失敗してもよいということです。もちろん成功していた方がよいですが、失敗してしまうこともあると思います。失敗してしまったときはフィードバックをおこない、次回の課題として結論づけるまでが大事だと思いました。



私が発表を聞いて大事だと感じたのは、事前調査は丁寧におこなうことと、挑戦を大切にすることです。まず研究前には事前調査をおこないますが、そこで使うデータが公的機関や研究論文などしっかりしたものでないと根拠が曖昧になります。また、調査が足りないとやったことの裏付けが減り、研究の説得力が足りなくなります。実際に何をするかも重要ですが、調査を丁寧におこなうことで研究をスムーズにおこなうことができると感じました。そして、挑戦を恐れずにまずはやってみることで、たとえ失敗したとしても、課題や改善策が生まれていきました。研究のすべてが成功したものばかりではありませんでしたが、失敗も意義があると思いました。